NPO法人加治川ネット21情報紙
かじかNET21
No.13
2011年 4月 1日発行

水辺のひろば

「私の加治川写真展」応募作品より（写真：白瀬 久恭）

川のある風景
～加治川の桜～

大正天皇のご即位と加治川の大改修工事の竣工を記念して、加治川の両岸に6，000本の桜が植えられたのは大正3年のこと。その桜がやがて長堤十里世界一と謳われ、昭和41年・42年の大水害が起きるまでは「加治川の桜見物」は大いに賑わいました。臨時列車が加治川堤に停車し、川には花見舟、臨時店舗の出店、芸者衆、そして歌に酒。そんな様子は映画の一場面にも登場したほどです。

今の桜は水害後の加治川堤の桜の復元を願い、平成元年から植樹したものです。加治川の流れに沿って咲く春の彩り、その借景として凛とした姿を見せる飯豊の残雪、桜並木と川と白い峰、春の景勝地です。

今春、思いもしなかった東日本大震災が日本を襲いました。被災された人の気持ちを思うと、花見見物などといっていられませんが、加治川の美しい桜並木は、今年もまた、春の訪れを告げます。

「私の加治川写真展」応募作品より（写真：高澤 昭司）

新発田の自然
「焼峰山（やきみねやま）」

新発田市街から南東方向、二王子山麓の右側に焼峰山とその稜線が見えます。東赤谷の滝谷集落から林道の奥に進み、数台の駐車スペースから少し戻ったところに焼峰山の登山口があります。ここから杉林の木立を抜けて、比較的ゆるい山道を歩いて1時間で、中間点の「うぐいすだいら」に着きます。南側に展望があり、先へ進むと焼峰山の頂上が少し見えてきます。

ここから先は高度が上がり、岩場や鎖場も頻繁に現れて汗を搾られます。遭難碑のある小ピークを過ぎて最後の急な登りを越せば1，085mの山頂に到着です。

全方位が見渡せて、西に内ノ倉ダム湖や新発田市街と日本海が、東には飯豊（いいで）の山々が続きます。南は俎倉山（まないたくら）や蒜場山（ひるば）の急峻が間近に見えますし、北側の谷間には内ノ倉川に続く「小戸の七滝」もはっきり見えます。

山頂広場から10分ほど東に、小高い別のピークがあって、切れ込んだやせ尾根を注意して進むと、山頂より16m高い「焼峰の頭」に着きます。ここでも360度の展望が楽しめます。

変化に富んだ登山道からは、初夏にシラネアオイやイワウチワなどの高山植物を、秋には切れ込んだ谷間を彩る紅葉を楽しむことが出来る静かな山域です。

こんな場所発見
大友稲荷神社 奥の院

初詣などで神社仏閣と並び、伏見稲荷、住吉稲荷など、稲荷神社もよくニュースに流れます。それらの神社と比べれば規模は小さいですが、新発田の有名どころの稲荷神社といえば、大友稲荷です。

大友稲荷は名前のとおり市内大友にあります。神社の創建は慶長年間（1249～1956）で、この周辺の領主だった大友実秀が、東泉寺の鎮守社として京都にある伏見稲荷神社の分霊を祀ったのが始まりと伝えられています。

家内安全、商売繁盛、諸願成就に御利益があるとして信仰を広め、県内外からも多くの参拝者が訪れます。境内には奉納された鳥居や小祠、石祠などであふれ、ある種の緊張感のある空間になっています。

毎年3月には初午が開催されます。今年の初午は3月4日で、あいにくの雪模様でしたが、大勢の参拝者が訪れていました。昔の初午の日には、観光バスが何台も列を作っていたという話も聞きます。今は昔ほどの賑わいはないもののたくさん並んだ鳥居は圧巻。新発田のパワースポットとなっています。

奉納された鳥居が静かに立ち並ぶ

くらしの方言 その7
「がっとに」

動作を表すことばもいろいろあります。幼い兄弟がなにやら遊んでいると…

弟「おにいちゃんの《ロボライダー》貸してー。」

兄「やだっ！自分の使えばー。」

弟「いいろぉー、貸してよーー！」（弟がロボライダーを引っ張る。）

兄「やめれー、引っ張るなってー。」

父「こら！二人とも、**がっと**にすっと壊れるぞ！」

兄弟「何？**がっと**って…。」

※「がっと」＝物を粗暴に扱う状態を「がっとにする」といいます。性格を表すことにも使われ、「がっとな人」とは行動が荒っぽい人の意。がつんと、あたりが語源でしょうか。

《編集後記》

▼東日本大震災は、誰もが予想できなかった大きな被害をもたらしました。新発田市内にもカルチャーセンターやサンビレッジの避難所はもとより、一般家庭などに700人以上の人たちが避難して来たそうです。

加治川ネットでは、避難してきた人たちも一緒に何かできないかと考え、3月19日に豚汁の炊き出しを行いました。ネット会員、敬和学園大学の学生やネットの活動に共感してくださった人たち、そして被災者も加わり、わいわいと材料を刻んだり煮込んだり。出来上がった温かい豚汁は、皆さんに喜んでいただき、心も体も「ほっと」した時間を提供できました。

今回の豚汁づくりは大成功。でもそれだけで終わらせる訳にはいきません。第2弾の炊き出しはもちろん、今加治川ネットができることは何なのか、それらを考え、順次実行していくことにしています。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設　立	1996年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子供たちによい環境（自然、伝統、文化）を残し、伝えたい。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか
年会費	法人会員10,000円、個人会員2,000円

発行：NPO法人 加治川ネット21　事務局所在地：新発田市小戸886-1　電話：(0254)31-4111　ホームページアドレス：http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/

新理事長あいさつ

理事長に就任して

NPO法人
加治川ネット21
渡辺　利道

はじめに、3月に起きた東日本大震災で被災された皆様、関係の皆様にお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた皆様のご冥福と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「将来を担う子どもたちによりよい環境を引き継ぎたい」「子どもたちに川との付き合い方を教えたい」「様々な活動をしている団体同士の橋渡しをして、地域を明るく元気にしたい」などを目的として産声を上げた「加治川ネット21」も、発足して15年となりました。

この度、設立以来、常に会を代表する立役者として活躍してきた若月理事長に代わり、私が理事長を引き受けることとなりました。

私たちを取り巻く世界はめまぐるしく変化してきておりますが、活動の原点である「将来を担う子どもたちのために」をモットーに、自分たちで出来ることを背伸びせずに行っていこうと考えています。今までと同様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

＝食文化探求＝

秋にはおいしい味噌が手前味噌の会の開催

3月6日(日)、午後2時から、当会主催の第7回手前味噌の会が、聖籠中学校地域交流棟で開催されました。

会場となった聖籠中学校は、県内でも唯一の教科センター方式による授業を行っている他、町民全体で子どもたちを育てようとしている学校です。地域の人との交流を進めるため、その拠点施設として地域で運営する地域交流棟が学校に併設されています。味噌作りの楽しさを新発田市以外の人にも知ってほしい、そしてこの中学校のことも多くの人に知ってもらいたいとの思いも込めて今回の会場としました。

県産の安心できる大豆と糀を使い、自分の選んだ思い思いの塩を混ぜ合わせ、自分で味噌樽に仕込む。半年後にはおいしい味噌になって私たちの食卓をより豊かなものにする。しかも、当然のことですが安上がりになる。安心、簡単、経済的、大勢でわいわい作業するから結構楽しい。これが手前味噌の会の人気の秘密のようです。

今年は特に宣伝をしなかったのですが、常連さんなど約70人が参加し、味噌づくりに汗を流しました。さてさて、どんな味噌ができるのか。食べられるのは秋になりますが、今から楽しみです。味噌ができる秋には、出来た味噌を使った催しを企画する予定です。

（文責　渡辺利道）

親子で楽しく味噌作り

＝環境学習レポート＝

小学生による環境学習発表会

平成22年11月14日の日曜日、新発田市・聖籠町の小学生による「環境学習発表会」が、新発田市生涯学習センターで開催されました。加治川ネット21のＮＰＯ設立5周年の記念事業として、1回限りの予定で開催した発表会も、多くの方に後押しされ、今回が4回目となりました。

先回は新型インフルエンザの影響で、直前に出場辞退を申し出た学校もありましたが、今年はエントリーした7校が元気に参加し、発表者の多い学校もあり、300人定員の会場は聴衆が入りきれずに、ロビーまで椅子を並べなければならないほどの盛況でした。

今年の発表内容としては何かを作るのではなく、調査をして学ぶという取り組みが目立ちました。発表の方法も、ニュース風に仕立て「現場からの中継」で繋ぐ演出や、30人前後で役割分担をしての発表など、それぞれが工夫し、熱のこもった発表になっていました。

同じ「環境学習」でも、何をテーマにするか、どのような視点や活動方法にするかの違いが、他校の発表を見たり聞いたりすることで、日ごろの勉強とは違ったいい刺激になっているようです。

同時開催のパネル展もまた好評。学習センターロビーやジャスコ新発田店などでの展示でしたが、21校が参加し、掲示に工夫を凝らしたものや、よく調査、観察したことが表れているものなどが並んでいました。調査して得られたこと、気づいたことから、実践へ。そういう気持ちをこれからも持ち続けてほしいと思います。

工夫をこらした発表もいっぱい

宝物みーつけた

溝口秀勝君入封三百年記念碑

『溝口秀勝君入封三百年記念碑』は新発田総鎮守「諏訪神社」の境内にあります。碑の裏側には「従一位公爵徳川慶喜書」と記されています。

幕末、天皇側についた新発田藩の記念碑を徳川家の方に書いていただくなんて、ちょっと考えられない気もしますが、新発田藩十三代藩主溝口直亮に輿入れした須美子さんは、徳川家から嫁いだ方で、母方の祖父が、なんと徳川慶喜ご本人であるとのことです。確かなことはわかりませんが、きっと須美子さんの口添えがあって実現したものと推察されます。

さて、諏訪神社境内にはこの他にもたくさんの石碑があります。東公園は大倉喜八郎氏から寄贈されたものというのは有名な話ですが、諏訪神社境内の鳥居にも「男爵 大倉喜八郎」の文字が見られます。皆さんもぜひ一度、諏訪神社の境内をゆっくりと散策してみてはいかがでしょうか。きっと新しい発見があると思いますよ。

写真は、県立新発田病院移転前、変わりゆく新発田駅前の風景を写真に残そうと、当会有志が駅前を散策した時のものです。

寄稿　殿様街道てくてく旅 ⑦

会津坂下から郡山へ

黒森峠を下って再び国道294号に合流し、今日の目的地である赤津の集落に到着。午後4時50分、辺りは少し暗くなってきた。

赤津の集落も昔の宿場の面影が残っており、情緒がある。村中をゆっくり歩きながら迎えの車を頼もうと、運転手の携帯に連絡するも、圏外のため連絡できない。今はどこでも携帯が通じるものと思っていたのに、未だにその恩恵に浴していない地域もあるのだと改めて実感した。

車を待っている間に中年の女性が「何をしているんですか」と尋ねてきた。「新発田から江戸まで歩いています。今日は会津坂下から歩いてきました」と答えると、「じゃあ水戸方面ですか」と言う。「いえ、水戸は通りません」と答えても、しつこく「水戸方面へ行くのか」と尋ねるので、仕方なく「水戸の方向に行きます」と答えると「がんばってください」と言い残して家に入ってしまった。皆で「いったい何が起きたのか」と顔を見合わせ苦笑する。

しばらく待つと、ようやく携帯が通じ、車が迎えに来る。何でも集落のはずれで待っていたとのこと。「なーんだそうだったんだ」である。

さて、一日目の行程を無事こなし、「三代」の海老名食堂に向かう。途中、旅の汗を流すため福良にあるサニーランド湖南温泉という温泉福祉施設に立ち寄る。この施設は郡山市が運営しており、郡山市民で60歳以上は無料とのこと。おかげで、年寄りで賑わっていた。市外の人でも入浴料230円と非常にリーズナブルでお勧めである。ただし、タオル・シャンプー類は持参必要。　（次号に続く）

環境豆知識

飛散!ヒサン!花粉症

今年も花粉症の季節がやってきました。花粉症は、患者数が2,500万人ともいわれ、5人に1人が罹患する国民病になっています。

花粉症がこんなに有名になったのは、いつごろからでしょうか。

1963年に栃木県日光でスギ花粉症が報告されています。その後、70年代後半には、度々大飛散をもたらし患者数が増加しています。

わが国では、戦後の復興で大量伐採し荒廃した山の再生で、1950年代にスギを一斉に植林しました。スギが生長し花粉を飛散させるまでに、およそ30年。1980年代からの急激な患者増は、この影響ともいわれます。

国では無花粉のスギの品種を研究していますが、普及するまでには更に半世紀以上を要するでしょう。

＝２０１１年総会＝

記念講演は自然にやさしい有機農法

毎年総会に合わせ開催する記念講演会。今年の講師は有機農産物認証機関（国指定）ＮＰＯ法人「赤とんぼ」の判定委員長の伊藤市平氏、演題は「自然にやさしい有機農法～自然との共生を目指して～」で、会場には会員も含め約40人が参加し、昔の稲作から、農薬、有機農法などの話を聞きました。

昔の稲作は、すべてが手作業で、今とは比較にならないほど、時間と人手が掛かりました。その時間と手間を減らすため、耕起や田植え、稲刈りは機械化され、機械化の難しい除草は農薬が主役となりました。

さまざまな農薬が使われ、生産量や労力は大きく改善されたものの、使用開始から20年以上も後、使われた農薬に問題があるとわかりました。その時は最良な方法であっても、後になって誤りであったということはよくある話。誤りを見つけたとき、どう対処するかが大切で、加治川ネット21の活動に通じるものがあると思いました。

有機農法は、肥料の管理が難しく、健全な土作りがなされているかどうかが大事で、余剰窒素は作物を不健康にし、人体にも影響を及ぼすとのことでした。手間がかかる上に病気に弱い有機農法は、生産者と消費者との相互理解や協力関係の構築が必要です。有機農法に多くの賛同者や理解者が広がれば、環境保全にも大きく貢献できるものと思いました。

家庭でも、プランターで有機農法の試行も手軽に出来ること、落ち葉や籾殻やこぬか等を適度に混ぜてやると良いとのアドバイスもありました。

＝学校・地域・ＮＰＯ＝

連携に向けて情報交換

2月19日、新発田市生涯学習センターを会場に「あめつちの日in新発田」が開催されました。この事業は、学校と地域が協力し合って活動をしていくための情報交換会で、当日は当会からの3人を含め、学校関係者、ＮＰＯ、行政など約30人が参加しました。

事例発表は3団体。敬和学園大学は商店街の空き店舗を利用した「大学生によるカフェ運営」の話、ユー&ミーは主婦の小さな活動から今は市内の学校へと広がった食物残さを堆肥に変える活動、そしてユー&ミーの活動に関連し、藤塚小学校の先生が残さ分別の苦労や子供たちの変化などを発表しました。

その後は、4班に分かれてのグループトークでテーマは「学校とＮＰＯが参加することでできるもの」。テーマに沿って活発な意見の出たグループもあれば、それぞれの活動を発表し合い「こうやって情報交換することが大事だよね」とテーマは気にせず盛り上がるグループなどいろいろでした。

それぞれが連携するために、学校側が限られた時間の中で「支援ができる団体とどう出会うか、どう受け入れるか」も大きな課題のようです。

お互いの連携方法を探って

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介（順不同）

(株)日園、曽根建(株)、(有)みずほ園芸、(株)アートグラフィック新潟、大進電業(株)、(有)ひかり電工、ミトモ電設(株)、ベック(有)、北越緑化(株)、新発田ガス(株)、菊水酒造(株)、NPO法人 赤とんぼ、(株)馬場工務店、(株)静岡グリーンサービス、聖光園(有)、エヌシーイー(株)、(株)花安 新発田斎場、新潟グリーンテック(株)、高橋基礎屋(有)、昭栄印刷(株)、若月建設(株)、川東土地改良区、豊浦郷土地改良区